

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200529		
法人名	社会福祉法人 唐津市社会福祉協議会		
事業所名	唐津市社会福祉協議会認知症対応型共同生活介護事業所きりご		
所在地	佐賀県唐津市肥前町切木乙548番地1		
自己評価作成日	平成29年12月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年1月18日	外部評価確定日	平成30年2月15日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が住みなれた地域の中で、それぞれのペースでゆっくり生活でき、びのびとした笑顔あふれる明るい施設にしたい。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

唐津市の東部、肥前町の山間部国道沿いに建つ認知症対応型共同生活介護事業所である。山間の田畑広がる自然豊かで昔懐かしい風景は、ここで育った高齢者には心安らぐ環境だと推測できる。近くに介護施設がなかったため、近隣住民から強い要望があり開設して2年9ヶ月。開設の経緯から、地域とのつながりや協力関係は深い。しかし開設3年に満たない上、管理者の交代などでまだ十分に地域に溶け込むには至っていない。今後は自治会に入会して回覧板の活用や情報発信も検討中であり、地域の祭りにも参加したい考えを持っている。地域に元気な高齢者が多いことから、自由にお茶を飲みながら話をしたり介護相談を受けたりできるようなサロンの開設も準備中である。事務室は広く、明るい暖かな落ち着いた雰囲気があり、窓際に大きなソファも置かれている。利用者はいつでも訪れてゆっくり話ができて、管理者・職員は利用者が落ち着くまで話し相手となっている。職員・利用者共に女性のみのため、男性の手を借りたい力作業などは地域住民が快く応じてくれる関係ができています。地域の協力を得ながら地元で溶け込めるように努めている事業所である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔あふれる楽しい我が家」という理念を、利用者様と一緒に毎食前唱和し、毎回「笑顔」というキーワードを再確認し、全員の笑顔があふれる日になるよう職員と奮闘している。	利用者が笑顔で楽しく生活するのを支えるという理念のもと、地域とのつながりを大切にしたい支援を心がけている。1日3回毎食事前に利用者・職員と一緒に理念を唱和するなど、常に理念を意識しながら支援にあたっている。管理者は、職員や利用者の声かけや声の様子から楽しい理念が実践されているか聞き取るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所から果物等の差し入れを頂いたり、散歩の時に声を掛けていただくなど地域住民として認めていただいていると思っている。	地域住民の要望から開設した事業所である経緯から、地域とのつながりや協力関係は深い。しかし開設3年に満たない上、管理者の交代などでまだ十分に地域に溶け込むには至っていない。今後は自治会に入会して回覧板の活用や情報発信も検討中であり、地域の祭りにも参加したい考えである。また、地域に元気な高齢者が多いことから、自由にお茶を飲みながら話をしたり介護相談を受けたりできるようなサロンの開設も準備中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、特に「認知症」という事ではないが、「健康チェック」の方法の紹介をした。委員の皆さんが家庭や地域の中で役に立てる時があればと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、地区内にある公園の利用料免除の話聞いた。来年度の予定に入れ利用者様に喜んで頂きたいと思っている。	運営推進会議は、駐在員や老人クラブ会長・民生委員などの地域住民や利用者家族・行政職員などの参加で開催されている。会議は事業所を知っていただけるような情報交換や意見交換の他、季節特有の病や専門用語・職員が研修で得た役立つ情報などの勉強会も行い参加委員から喜ばれている。委員の情報から今年は「ぼたん緑の丘」に切木ぼたんを見に行く計画である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と特別に連絡を取ってはいないが、必要時には、報告及び連絡をしている。又、運営推進会議に委員として参加して頂いており実情は理解していただいている	行政担当者が運営推進会議の委員であり、会議案内は管理者が役所に出向き直接手渡しを心がけている。日頃から協力関係を築いており、利用者や事業所の実情・課題などの情報も共有し、行政と連携を保っている。管理者は、介護保険以外にも生活保護担当者とも顔見知りであり、相談し合える関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束排除理念」を掲げて職員全員で身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	身体拘束について契約時に文書で説明していないが、必要な時には家族に詳しく説明する体制はできている。理念にもある笑顔あふれる楽しい生活の支援のため、利用者が自由に行動・活動できる支援に努めている。行動を抑制するのではなく見守り強化で対応を心がけ、管理者は職員に「声掛けと見守り」の大切さを伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度、受講を予定していたが、研修が中止となり受講はできていない。新聞等で見聞きすると、自分達に置き換えて考えている。来年度の研修計画にも入れたいと思っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参加できていない。来年度の計画に入れたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書及び重要事項説明書等の説明により、理解し納得していただけるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に「ご意見箱」を設置しているが投稿はない。面会に来られた時に、少しの時間でも利用者様の近況やご家族様のお話を伺うようにしている。	管理者や職員は、利用者や家族とよく話すことを心がけている。家族の面会時や利用料金持参時に利用者の近況報告をし、重要事項説明書には事業所における苦情受付窓口と外部苦情受付機関を明記しており、意見の把握に努めている。夕食後やテレビをゆっくり見ながらくつろいでいる時に利用者から聞くことも多い。出された意見や要望は申し送りや連絡ノートに記入して職員間で共有し、できることはすぐに対応したり、プランに反映するなど支援に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内職員会議や管理者会議等で検討、反映させている。又、夜勤者の申し送り等でも短時間ではあるが、気づき等をお互いに出し合い、職員へ確認、周知している。	管理者は職員の意見や要望に耳を傾け、運営に反映する姿勢を持っている。管理者は職員と普段からよく話し、思いついたことはすぐに申し送る他連絡ノートを活用して情報共有を図っている。入浴の回数・時間帯の変更や勤務時間の調整など、出された意見や要望は運営に活かせるように検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本年度、一定基準を満たした職員に対し介護職の正職員化が実施され、処遇面は改善されている。9月から新しい職員が入った事で、万全ではないが勤務にも少し余裕が持てるようになった。今後は、やりがいに繋がるよう気持ちも支えていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「勤務成績評定書」等にて職員の力量等を把握し、又、研修計画に基づき全員での研修の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホーム連絡会」にて交流や勉強会に参加している。また、「小規模多機能」ではあったが、職員の交流会のミニバレー大会に参加し他施設の職員と交流できた。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「フェースシート」及び「退院・退所情報記録書」の活用や入所判定会議の情報を全職員に周知し、ご本人様の不安を取り除き、可能な範囲で要望に応じられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面談時はもちろん、来所時に様々な話をする事で、良い関係づくりに繋がっていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設として支援可能な事、支援困難な事を説明し、ご本人様及びご家族様の意向等も聞きながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設での生活の中で、ご本人様ができる家事等のお手伝いをして頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様の関係を継続、支援できるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室利用時の支援や家族様、友人様の面会などにより、良好な関係継続の支援を行っている。しかし、あまり面会者が来られない利用者様もおられ十分ではない。	フェースシートに書かれた情報を基に、利用者一人ひとりに合った支援につなげている。家族や知り合いの面会が利用者にとって大きな喜びとなる考えから職員はなるべく面会に来ていただけるように働きかけをしている。知人の面会時には一緒に写真をとって飾ったり、面会に来ることができない人とは電話で話せるように支援している。出身地の祭りやおくんちなど、昔懐かしい思い出話や話しやすい話題等で盛り上がることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は利用者様の意思を尊重しながら、居室やリビングで過ごして頂いている。又、職員が利用者様との間に入り、利用者様同士の関わりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、ご家族様の相談を受けていた。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の利用者様一人ひとりとの会話などから、思いや希望の把握に努めているが、把握困難な時は、ご家族様の意向も参考にしている。	職員は利用者に話しかけることを心がけており、日々のケアの中から意向を汲み取るように努めている。利用者が話し出した時は職員は真剣に聞くように努め思いや意向の把握に努めている。言葉の少ない利用者には、二人っきりの時やくつろいでいる時などその人が話しやすい状態の時に聞くようにしている。聞き取った情報は申し送り、連絡ノートに記入して職員間で共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「フェースシート」等の入所時の情報や本人様との会話・面会時のご家族様からの情報により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの心身状況を観察し、職員間で共有している。又、必要に応じて主治医に情報を伝え指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より本人様はもちろん本人様の身近にいる職員と話し、モニタリング時は、本人様・職員との面談を行っている。又、必要に応じて主治医からの意見を受け、ご家族様に連絡、要望等の確認を行い、介護計画書作成に取り組んでいる。	管理者は、介護計画の作成には家族との情報共有が大切と考えており、こまめな連絡・説明を心がけている。利用者や家族から要望を聞き、具体的な介護計画が立てられている。評価は毎月行われ、家族や本人の意向を聞きながら現状に即した介護計画の変更に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当職員が毎月評価する「介護サービス計画書評価表」を確認して、介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のところは取り組めていない。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後も地域の役員様に参加いただいている「運営推進会議」の情報や意見を参考に支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や緊急時対応など、協力医療機関へ電話相談を行い連携を図っている。又、他科受診が必要な時は、主治医に相談、指示のもと適切な医療を受診できるよう紹介を受けている。	入居契約時に十分説明し、話し合っている。急変時対応の関係から、事業所の協力医への受診変更をお願いしているが、家族や本人の意向を大切にして入居前からのかかりつけ医の継続受診も支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが看護職員が勤務しており、介護職員と情報を共有し利用者様の体調管理の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には「入院時情報提供書」を提供し、担当看護職員及びソーシャルワーカーとの情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて「急変時および終末期における医療や介護に関する意思確認書」に基づいて説明を行っている。現在のところ、事業所としての終末期における指針ができていないため、今後指針の作成に取り組みたい。	契約時に、事業所のできることでできないことを本人及び家族に説明している。急変時及び終末期における医療や介護に関する「意思確認書」、緊急時対応についての「承諾書」、ターミナルケアや心肺蘇生などの延命処置についての「同意書」を取り交わしており、本人・家族・事業所は終末期に向けた方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練が定期的には行えていない為、今後は定期的に訓練を行いたい。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	原子力屋内退避訓練、消防訓練は実施した。又、地域の方の協力を受けての消防訓練を3月に予定している。	年2回の消火・避難訓練と1回の原子力関係防災訓練が実施されている。訓練は運営推進会議委員に参加の呼びかけを行っている。今後は広く近隣住民への広報を検討するなど地域の協力も模索中である。職員はAEDや消火器の訓練も受けており、使用することができる。災害に備えて飲料水を備蓄している。また、食料の備蓄を準備中である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、堅苦しくならず、又、慣れなれしすぎない言葉かけをするよう心がけている。	「関係機関への情報提供についての同意書」と「利用契約における個人情報同意書」があり、使用する目的や使用にあたっての条件を明確にし、契約時に説明をして同意を得ている。利用者に対する職員の接し方や利用者の様子から、一人ひとりの人格を尊重し敬意を払っている様子が窺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	動作の前には、利用者様に気持ちの確認をするなど利用者様の希望や自己決定を尊重しているが、なかには意思決定を表現されない方もおられ、職員が想像で支援している時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事はある程度、時間を優先しているが、入浴は利用者様の気持ちを大切に支援している。その他、利用者様のペース・希望に沿って支援するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類更衣時は利用者様の意向を優先し、必要に応じて助言を行い選んでいただいている。又、利用者様に確認しながら職員が選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜については、外注(昼食・夕食)で、施設職員が利用者様一人ひとりに応じた食事形態で提供している。朝食と日祭日については、施設職員が調理し提供している。又、利用者様に準備のお手伝いをしていただいている。	朝食以外の日々の食事は外部に委託しているため、献立に利用者の希望を取り入れるのが難しいが、日曜日や祝日には利用者の意見や要望を聞きながら柔軟に決められている。職員は声掛け中心の見守り介助を心がけ、出来る限り自力で食べられるように支援している。時には、コーヒー・ココア・しょうが湯やケーキ・デザート・果物・お菓子などで利用者好みの楽しいおやつも準備される。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注により栄養バランス・摂取量ともに一人ひとりに応じた食事が提供できている。 水分摂取については、声かけを行い少しずつでも飲まれるようにし、お茶が苦手な方には、スポーツ飲料等に替えて飲んでいただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様の能力に応じて口腔ケアを行っている。義歯の方は、毎日夕食後に洗浄剤を活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	現在5名の利用者様がオムツを使用されている。 排泄パターンを把握し、定期的に声かけを行っている。	利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけ、トイレで排泄できるように支援している。尿意を感じる人には声かけや様子・時間でトイレ誘導している。特に立位を保てる人は必ずトイレでの排泄を支援している。布パンツ使用やパッド・紙パンツなど本人の必要に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト等の乳製品を提供したり、こまめな水分摂取の声かけを行っている。水分摂取の少ない利用者様については、飲み物の工夫や声かけなどで対応している。テレビ体操などの運動で少しでも腸内への刺激になればと体操の声かけもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本としては、曜日や時間帯など決めているが利用者様の体調・気持ちに応じるようにしている。	入浴は週2～3回が基本であるが、望まれれば職員の体制を見ながらできる限り支援するように心がけている。清拭や足浴など利用者の要望や必要に応じて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの状態に応じて支援を行っている。又、夜間の不眠・浅眠の申し送り時は、必要に応じて昼寝の声かけもを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的な往診や利用者様の状態を主治医に報告し、指示のもと処方された処方薬を説明書にて、目的・用法・用量を再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり干す準備は、3人の利用者様が自分がすることとおられ、逆に職員に声をかけられる。他の利用者様もレク時に考えることや体を動かすこと等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は出来ていないが、地域に花が咲いた時には、散歩やドライブを兼ねて花見に行った。気候が良い時には、少人数で散歩に出かけた。	管理者は外気にふれたり日光を浴びることの大切さを理解しており、外出の機会を多く設けたい希望を持っている。しかし、利用者の高齢化による身体機能の衰えによりままならない現状もあるが、天気の良い日は散歩に出ることもある。散歩の途中に近所のお宅の美しい花を觀賞したり、地元のお宮近くでのお参りもしている。花の香りに包まれるのも大切との考えから、季節の花見ドライブに出かけることも多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様お一人が、小額を所持され自己管理をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望により電話を掛けたり、ご家族様からの電話を取り次いだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、殆どの利用者様はリビングの椅子やソファに座られて、ご自分のペースで休息やテレビ鑑賞をされている。リビング内は季節行事等の飾りつけをして季節を感じていただけるよう工夫している。 食事時や休息時は音楽をかけ、ゆったりと過ごしていただけるよう工夫している。	事業所内は、木の特徴を活かした淡い色調に統一され、温もりを感じる設えである。毎朝窓を開けて換気を心がけ、エアコンと加湿器・空気清浄器で温度・湿度を管理している。新聞紙を丸い筒状にして水を吸わせた手作りの乾燥対策も行われている。不快な臭いが発生しないようにトイレは朝晩清掃している。次亜塩素酸ナトリウムで手すりや床を拭き上げ、衛生面に配慮している。浴室やトイレはヒートショックに配慮してエアコンや暖房器具が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが狭いが、好んで座られる場所があり気の合う利用者様同士で昔話で盛り上がる時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや小タンスは施設で設置しているが、他の物は、私物を使用されている。ご家族様が衣替えなどをしてくださる利用者様もおられる。	居室は奥行きが深いクローゼット付きで大量の荷物が収納できるため居室内はすっきり片付いている。居室には食べ物以外は何でも持ち込み可能である。壁や小箆箆の上には写真やカレンダー・手芸小物などが飾られ、職員の協力を得ながらその人らしい居室づくりがなされている。職員と一緒に利用者も手伝って居室内清掃をしており、きれいに片付いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	以前から日めくりカレンダーを掛け、利用者様が日にちを確認されている。今後、なお一層安全にそして、自立した生活が出来るように環境整備を整えていきたい。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない